

神戸港将来構想について



豊田 巖
論説委員
阪神国際港湾株式会社
専務執行役員

本年、開港150年を迎えた神戸市は、概ね30年後を目標とする神戸港の将来構想を発表した。港湾機能はもとより、港を原点とし、港と共に成長・発展してきた神戸の街や、ウォーターフロントにおける生活空間についても様々な提言が示されている。

初めに神戸の強みと弱みを整理し、あわせて、社会経済情勢の変化を踏まえて神戸港が目指すべき将来像を示し、その目標を実現するための戦略的取り組みを提言している。

神戸の強みと弱み

神戸が活用すべき強みとして、国内外との充実した航路ネットワーク、国内背後圏とのアクセスの良さ、高度で丁寧な港湾荷役技術、鉄鋼・造船・海事・航空等の産業集積、若者による街の活力、クルーズ拠点としての優位性、生活文化や景観、環境分野等今後求められる豊富な技術蓄積、震災経験等に基づく高い防災性などが挙げられる。

一方、神戸の克服すべき弱みとして、製造業の海外移転等による輸出入量の減少、コンテナ取扱量の停滞とコンテナトランシップ(積替え)機能の低下、就業による地元大学卒業者の流出、魅力的な観光ツールの不足、都心部とウォーターフロント間のアクセス・回遊性の低さなどが挙げられる。

神戸港が目指すべき将来像

未来に向けての決意を「挑戦・進化を続けるみなと神戸」とし、これを神戸港の目指すべき将来像としている。

「産業・港湾」分野の目標を「グローバルなサプライチェーンの中で、新たな価値を生み出す港」～神戸国際ロジスティクスパーク構想～とし、「にぎわい・都市」の目標を「ラグジュアリーな時・場・出会いで、新たな価値を生み出すみなと」～世界を魅了するウォーターフロント構想～としている。

「産業・港湾」分野における戦略的取り組み

この取り組みは、新たに整備する六甲アイランド南における最新鋭のテクノロジーと、既存の港湾物流機能の更新・高度化を組み合わせる必要がある。

【コアプロジェクト I】

神戸港ロジスティクスターミナルの整備による高付加価値化機能を備えた再輸出型トランシップ拠点の形成

- ① 次世代コンテナターミナルと流通・加工・製造機能の高度集積地の一体化
- ② 神戸市、阪神国際港湾(株)・国・経済界一体となった戦略的海外展開

- ③ 多様な貨物に対応可能な海上物流拠点の形成

【コアプロジェクト II】

最先端の技術と高品質な物流サービスによる神戸ブランドの確立

- ④ テクノロジーの進化に対応した高効率な物流システムの実現
- ⑤ 高品質で安全なグリーン物流と新エネルギー活用システムの提供
これらを実現するために必要な事項として
- ⑥ 高品質な港湾サービスを支える高度人材育成

「にぎわい・都市」分野における戦略的取り組み

この取り組みは、神戸港の中で最も古い歴史のある新港西地区の再開発と、背後の既存市街地を連携・一体化することにより、大きな効果が得られる。

【コアプロジェクト III】

世界から人を惹きつける神戸ウォーターフロントの形成

- ⑦ 都市の成長を牽引するウォーターフロントの再開発
- ⑧ 新たなランドマークとなる神戸港のシンボル景観の整備
- ⑨ ウォーターフロントの特色を生かした豊かな生活環境の創出

【コアプロジェクト IV】

クルーズ船受入環境充実とマーケット拡大によるクルーズ都市の構築

- ⑩ 多彩なクルーズ船に対応するクルーズターミナル群の再編
- ⑪ クルーズ文化醸成と国内マーケットの新規開拓
これらを実現するために必要な事項として
- ⑫ 海・空・陸のターミナルを結び、集客拠点を回遊する交通網の整備

これまで神戸では、ポートアイランド、六甲アイランドの開発において、「住み、働き、憩う」まちとして、住宅、業務機能と港湾物流機能の両方を有する複合的な都市空間を創ってきた。これについては、両機能の両立を図る配置計画や道路等交通機能の適切な整備により大きな問題を生じることなく、一定の成果を得たものとする。

今回の将来構想で特に注目すべき点は、国際的な産業、経済環境が大きく変化していく中で、今後神戸の産業、経済をいかに展開していくべきかという課題に対して、六甲アイランド南という新たな空間において一つの提案を示したことである。

これまでとは異なり住機能を配置せず、高度にシステム化・集約化した高効率な港湾物流拠点、流通・加工・製造拠点を一体的に形成し、日本国内に加え、経済成長が進み生産技術の向上が進展するASEAN諸国、インド等からの工業部品、半製品等を、高度な技術により高い付加価値を備えた最終製品として再輸出するという戦略を構想している。

その実現には、少子高齢化に伴う日本人労働者の減少を補う、高度な技能を修得した外国人技術者の就労や、国際的なサプライチェーンの進展に対応する24時間稼働の実施、保税地域の設定等、多くの解決すべき政策的、社会的な課題も予想される。

これらの課題に対応しながら構想の実現を進めることが、神戸港の将来に向けての使命であり、日本の他の港湾都市の在り方の参考になると考える。